

第2回 島本町総合計画審議会 要点録

(平成31年3月12日作成)

1	会議の名称	第2回 島本町総合計画審議会		
2	会議の開催日時	平成31年1月23日(水) 午後2時～午後4時15分		
3	会議の開催場所	島本町役場地階第五会議室	公開の可否	Ⓞ・一部不可・不可
4	事務局(担当課)	総合政策部政策企画課	傍聴者数	7名
5	非公開の理由 (非公開(会議の一部非公開を含む。)の場合)	(この欄は斜線で消す)		
6	出席委員	天沼委員、大西委員、厚東委員、後藤委員、小林委員、小山委員、末岡委員、 寺田委員、中瀬委員、中村委員、野間委員、八田委員、峯森委員、三村委員、 谷田部委員、山内委員、山本委員、横井委員、吉田委員 (五十音順)		
7	会議の議題	1 第五次総合計画の策定に向けて 2 その他		
8	配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ● 資料4 第五次総合計画(序論部分・素案) ● 資料5 ワークショップ実施報告書 ● 資料6 アンケート報告書(詳細版) ● 参考資料 島本町総合計画審議会 委員名簿 		
9	審議等の内容	別紙のとおり		

第2回 島本町総合計画審議会 要点録

開会

- 出席委員数の確認
- 委員挨拶（新任委員、前回欠席された委員）
- 配布資料の確認
- 傍聴の許可

1 第五次総合計画の策定に向けて

事務局 それでは、案件1「第五次総合計画の策定に向けて」の審議を行います。まず、「ワークショップ・アンケート報告について」事務局から説明願います。

事務局 【資料5（ワークショップ実施報告書）・6（アンケート報告書）に基づいて説明】

会長 ワークショップ実施報告書について、皆さまのご意見等があればお願いします。

委員 ワークショップに参加した方から、みんなで議論して、意見をまとめたものが発表概要であり、重要だと考えていると伺いました。町からのワークショップ成果を確認したいと思います。

事務局 資料5の6ページ以降に、1回目の検討結果を基に、2回目に各グループで検討された将来像や取り組むべきことをまとめております。また、検討内容の中で主なものや、特にというものについて各グループから発表いただき、それをまとめたものが発表概要です。

委員 よくまとめられていると思いました。まとめられた成果をどう総合計画に反映するかが課題だと思います。次回出してほしいと思います。3ページに人口3万規模が良いとされている。ほどよいスケール感で、日本のコンパクトシティのモデルになれると書いてあります。この辺りを、どう引用しながら、今回の計画をどうするかを議論してほしい。都市農業の話もされている。うまく総合計画の本体に反映するように努力していただきたいと思います。

事務局 今回のワークショップ、アンケートでもさまざまなご意見いただいております。前回もお伝えしておりますが、いただいたご意見については今後の審議を行う際の基礎資料として参考にさせていただきたいと考えております。今後の審議の際にご活用いただければと思います。

委員 ワークショップ報告書は、わかりにくい言葉は行政がまとめられるときにもう少し平易な言葉で書いていただくか、注釈していただきたい。小学校6年生か中学生でも読んでわかるような言葉の使い方をしていただきたい。特にカタカナで書かれたら、皆さん同じ言葉でも持っている認識やイメージが違うと思うので気をつけていただきたいと思います。第1回の総合計画要点録の委員発言は全部委員で統一されています。誰が何を言っているのかイメージ湧かなくなりました。論議の過程は誰がこのことを言ってこういう答えがあつてという筋道がわからないと読み込めないところが

あると思います。しかも要点録や議事録は委員の事前の了解なしに公表されてしまうので、事前にメール添付で送り、間違いないか確認をとってから公表していただきたい。言葉で話したものと文章に落としたものでは、ニュアンスが変わってくる。話し言葉では通じるが文章に落としたら部分的におかしいこともあります。少なくとも会長の目を通して公表されとか、ルールを作っていただきたいと思います。

事務局 ワークショップの報告書については、わかりにくい言葉は注釈をつけるかどうか、検討させていただければと思います。また会議の要点録については、個別のお名前は公表させていただいておりません。町の審議会についてはほぼ同様の取扱をしております。今後どうしていくかについては課題として考えさせていただきたいと思います。

会長 要点録については、今後考えていきたいと思います。

委員 私は、各発言の委員名は出してほしいと思います。ここで発言をするということは委員としての責任を持ってやっていることで、批判は甘んじて受けなければいけないと思っています。名前公開には賛成します。ワークショップについて、各グループ共通して、自然。水とみどり、自然豊かな島本がいい、農業や環境、住民と行政の関係、住民参加が出ています。住民参加は、当たり前のことです。こういう意見が多発しているということは、まだまだという認識が参加者の中であったと私は思います。非常に重要な観点だと思います。アンケートの間24では、水やみどりが豊かなまちというのが47.7%と突出してますが、多い意見は重み付けをして総合計画に反映してほしいと思います。資料4は、総花的でポイントが全部書いてあります。町民がワークショップおよびアンケートで強調しているところが示されないとコンセプトが見えない。今回の総合計画に関してはコンセプト的なことを全面に打ち出してほしいと思います。

総合計画を町民で知っている人はあまりいません。すごく残念ですが、町づくりに興味がある方でも、認識があまりない。総合計画を読んでも、キャッチーではない。第五次総合計画は、アンケート、ワークショップの意見を前面に押し出す、コンセプトがあるとより見ごたえのある計画になっていると私は考えます。

委員 ワークショップ報告書は、子育てについても書かれています。12月に保育緊急事態宣言を出されて大阪府最悪レベルの待機児童で、全国最高レベルかもしれないということで、衝撃を受けました。第四次総合計画において、人口増加を目指す、3万2千人を目指すと言われているが、保育園増設のことは書かれていない。身が引き締まる思いでワークショップ報告書を読ませていただいて、子育て環境を保障するような議論が今後行われたいいけない、ワークショップの結果を見ても、各グループでも子育てということは重要課題として言われているので考えていきたいと思っています。

委員 子育て世代の方、お父さんお母さんの意見を積極的に取り入れていただきたいです。参加された関係団体をお示しいただきたい、小学生のお子さんをお持ちの保護者の方に参加いただける配慮があったのかお伺いしたいです。

事務局 ワークショップに参加いただいた関係団体ですが、高校生、PTA、障害者団体、ボランティア

サークル、環境団体、観光案内ボランティア、商工業者、自治会、女性団体から推薦いただきました。また、子育て世帯の方が参加しやすくなるようにということですが、参加しやすいように土曜日、日曜日にそれぞれ開催させていただいたところです。

委員 サントリー山崎蒸溜所に年間沢山の人が来られて帰っていかれる。水無瀬、島本駅方面にそこを訪れた人を誘導する方法として町内の循環バスを引っ張ってくるとか、何か知恵を出さないという声が強くなりました。

将来的な基本計画に含めていただければ、商工業者も喜ぶと思います。

事務局 サントリーは町内最大の観光スポットになっておりまして、何万人もの方が来られて外国の方も来られます。人の動きがどうしても大山崎町方面を中心に留まっていることは本町でも認識している課題です。今後、観光振興あるいは商業とのタイアップといった施策を考えていく中で検討すべき問題の1つと考えております。

委員 観光については、NHKの朝ドラや大河ドラマに島本・水無瀬が取り入れられ全国的にPRしていただければ一番ありがたいです。承久の乱や後鳥羽上皇といったフレーズが出たときにマスコミの枠と相乗りすることも考えていかなければいけないと思いますのでよろしくお願いします。

会長 資料6のアンケートについても、ご意見をいただきたいと思います。

委員 子育て、高齢者の問題、島本町は住みやすい、住みよい町はみんなの認識でした。それと緑が豊富というのもみんな周知のものだと思いますが、最近高いマンションが建ってきて、景観も前と違ってきました。

マンションが建つ中で、そのマンションを建てる条件の中に豊かな緑を添えて作ってくれるように進言することや、子育て、高齢者、障害の方、誰もが使える場所を作って、そこには福祉のことを相談できる場所も作ってほしいと思います。

事務局 マンションや住宅開発の際に、開発指導要綱等で公園の設置や緑化について規定されていますが、全体の共有のものとなると難しいと思います。ただ、新しい住宅ができていく中で、そこでのコミュニティ形成や既存の住民さんとのコミュニティ形成かどうなっていくのかは、本町の地域コミュニティや地域福祉の大きな課題の1つだと思います。今後、考えていくことになると思います。

委員 バスの件ですが、年長者の方は自分で危ないと思っていても移動手段がありません。ここは坂が多いので、やっぱり車ということになってしまいます。無料じゃなくて、お金を出してもいいから、バスの便を増やして皆さんが住みやすくなるような町にさせていただけたらと思います。以前は住民ホールがありましたが、今は大きな会場がありません。ふれあいセンターの小さなケリヤホールで文化祭もやっておられます。以前は700人近くの方が来ていただきました。今は入りたくても入れない状況です。今後、庁舎建て替え等の時に階数を多くしてでも町民ホールみたいなものを作っていただきたいです。

委員 冒頭から個別の具体的な要望の話になっていますが、今日の本題は総合計画の序論の審議です。

会長 ありがとうございます。続きまして、「第五次総合計画・序論素案」についてです。

事務局 【資料4（次期計画の序論・素案）に基づいて説明】

会長 では序論の第1章、第2章について、まず皆さんからご意見を伺いまして、そのあとで第3章について、議論していきたいと思います。

委員 5ページの自然的条件については、島本町のすばらしい植生を参考に文章を、山間部から淀川水系前までについては、再検討してください。島本町では、1つの町域内に水無瀬川の1河川1流域があります。このあたりを強調されると、後々の自然や環境の問題とすべてにつながってくると思います。次に、6ページの人口の推移について、年齢別の人口が分かるデータを示してほしいです。最近75歳人口までが就労人口という話が出ています。高齢者が、どれくらいのボリュームなのか分かるデータを示してほしい。それが子育てに関係します。子どもの環境をどうするのか、ライフサイクルにあった人口構成がわかるような書き方をしていただきたいと思います。8ページの土地利用状況の円グラフは、土地利用図にされることも検討ください。

委員 マツの木は現状ほとんどないはずですが、それから、コナラと書いていますが、ナラの木です。それよりも雑木が非常に多い。それから人工林はスギ・ヒノキということで、今年の台風21号で人工林が壊滅的に倒れています。状態は10年前とかなり変わっています、環境問題も。竹林が広がった、非常に山が弱っているということです。

事務局 自然的条件の記載につきましては、前回から修正しておりますが、いただいたご意見を参考に、表現の見直しを検討させていただきたいと思います。年齢別人口については、今後将来人口の推計や議論をする際にグラフや資料をお示しさせていただきたいと思います。

委員 行政機関が作る文章冊子は立派なもので模範的なものだと思いますが、やはり一番最初に持つてくるべきものは夢ではないでしょうか。夢とか希望とかこうあるべき、私達はこう思います、というような理想的なところを打ち出していったら、それが達成するかはわかりませんが、理想を掲げてやっていったほうが良いと思います。

事務局 総合計画の構成では、序論の後に基本理念、将来像といった、キャッチフレーズや目指すべき町の姿を示していきたいと考えております。

委員 6ページの人口の推移について、いちばん下の年齢3区分別人口比率の推移は情報が少なすぎるので、たとえば15歳から64歳という生産年齢人口だけではわかりにくいので、人口ピラミッドみたいな形で示していただければ、わかりやすいと思います。これから、30歳の女性が極端に少なくなる時期に入ってきます。その場合、普通に考えれば出生率が少なくなるはずですが、人口の推移の6行目で、近年は、3万人台を維持しながら微減傾向が続いてきましたが、住宅開発により、今後しば

らくは人口増加が想定されます。ということですが、社会増というかたちで当然人口は増えますが、出生数そのものは今後、当分少なくなるはずなので、その自然増と社会増をもう少し詳しく書いていただいたほうが今後、人口3万人を維持するのであればどういふものが必要で、もし人口を少なくしてもいいというのであれば、どれくらい少なく減った、そういった判断材料になると思って、もう少し細かく資料を作っていただければと思います。

事務局 住宅開発も単純に転入だけでなく、転入によって若者世代・子育て世代が増えて、そこから生まれてくる人達もいる、転入で居住される場合もある、その両方の側面があると思います。その部分の自然増減・社会増減という部分について、お示しさせていただきたいと思います。

委員 やはりアンケート、ワークショップをされていますので、10ページに掲載するだけではアピール度という面でないし、やった結果が大事でいろんな意見がでました、それを今から展開していきますと強調すべき点が見えたほうがいいと思います。夢の部分、心配や今課題にのぼっていることが如実に出ています。たくさんの意見の集積である、ワークショップとアンケートですから、島本町はみんなこんなことを考えていると自信をもって、中学生が見ても分かりやすく、考えてほしいと思います。人口に関しては、将来の審議会で島本町の人口ビジョンについて説明していただきたいと思います。

事務局 アンケート及びワークショップ結果の見せ方や夢の部分については、慎重に考えさせていただきたいと思います。現時点でアンケート、ワークショップの抜粋はできておりませんが、その中からエッセンスが見えるかたちで工夫させていただきたいと考えております。我々の位置づけとしましては、第2章の人口や財政、町の現況の1つとして住民の意見等があると捉え、それらを踏まえて次の第3章の潮流・課題に進んでいくというかたちで構成を考えております。また、人口ビジョンの配布については、検討させていただきます。

委員 5ページの島本町のあゆみについて、戦後は以降が、第四次総合計画では大事なことが書かれています。この問題は今の財政につながっていると思います。

事務局 島本町のあゆみについては、今の段階では簡素にしております。今後、文章や年表を使って示していくのかについては再考させていただきます。

委員 負の歴史も含めて知っていききたいので、第四次総合計画にある文章ですし大切にさせていただきたいと思います。

委員 人口について、建設マンションに見込まれる人口増を反映したもので議論したいと思います。島本町のあゆみでもJR島本駅ができて、高層マンションラッシュが起きていて、これから住民感覚とどう折り合いをつけるかが課題です。人口増加や高層マンションという話を含めながら住環境をどうやって作っていくかという課題につなげていったほうが、今後の島本町のビジョンを考えるうえで有益ではないかと思います。

事務局 グラフについては、今後追加させていただく場合もございます。また、今後、人口推計の資料もお示しする予定としております。

委員 転入・転出について、先の戦略を考える上で、島本町ではどこから人が来ているのかということや、居住期間を把握する必要があると思います。データの使い分けを、しっかりしていただきたい。

委員 8ページの交通環境ですが、電車の駅に関しては阪急水無瀬駅とJR島本駅が載っています。道路に関しては、近隣ということで島本町以外のところが載っていますが、電車についてはJR山崎駅、阪急大山崎駅もすぐそばで、交通の便の1つでありますから載せるべきかと思います。

事務局 町民の方は、上牧駅も山崎駅、大山崎駅も使われている状況です。文章として追加するか、近隣の駅を表す図面で示すかは、検討させていただきたいと思います。

会長 第3章について、ご審議願います。

委員 12ページの安全・安心のところと4番の環境の保全のところ、山林は、見た目は美しい緑色をしていますが、入ってみたら大変なことになっています。環境の保全と防災をどうするか、最近、分野横断的な発想になっています。個別も大事ですが、個別間のクロスについても頭に入れてほしいと思います。最近、公共施設が老朽化しています。行政だけでなく、住民の方々がそれにどう関わることが、検討すべき議題です。5の住民参画、共生協働のところ、PFIやクラウドファンディングの話、住民と行政が協働して外部支援をどう得るのか、列挙する項目を書いていく、項目間のクロスをどうするかということ、を次回以降検討してほしい。1と6と7がソフト的な話、2の子どもと3の安全安心と5の人権以外がソフト的な話。3と4の自然と環境のところ、ソフト的な話が書かれている。1と6と7、2と3と5そして4がこういう行動をするということを集約されたら1から7まで並びが見えやすい。最近の総合計画はこれらを横つなぎするような施策の並びになっている。

事務局 7つの項目はそれぞれが関連しあっていると認識しております。なるべく分野ごとに分けましたが、関連性の表現は検討させていただきたい。最終的にさまざまな関連しあう課題や状況をどのように町づくりに生かしていくかについては、施策の基本方針や分野ごとの施策の中で展開していけるように考えております。

委員 大事なことの1つである商工業にふれていないのではないかと。若山台とかでは商業施設がなくなって困るといったこともありますし、町内の商店街はシャッターを下ろしているところが多い。商工業の振興なくしては安定的な町民の生活は将来的には維持できないのではないかと、特にこれから儲からないから後継者がいない。儲かる仕事がないから創業しないといった全国的な課題があり、施策を打ち出してはいるが、なかなか効果が出ていないため、基本計画に盛り込んでいただいて、将来展望を示していただきたいと思います。

事務局 商工業の関係では、人口減少により、さまざまな影響がでます。地域経済の衰退やシャッター商店街の問題も、まちの魅力向上と活力維持の課題に含めています。今後、基本計画等で施策を示して

いく中で商工業やその他の産業についても触れていくことになると思います。

委員 第3章について、章立てが重要だと思います。なぜかというとな第四次総計ではまず章立てがあって次の基本計画の詳細にいきます。すると章と施策が対応する形になる。前回総合計画の反省点として、章立てが分断されていることが問題としてあります。この3章の1に人口減少社会への対応と地方創生があり、4章に環境の保全と自然の調和があります。この1と4を見ますと4の環境の保全自然の調和は1の町の魅力向上と非常に関係している。ワークショップの意見で、町の魅力が自然との調和、水と緑ですといった意見が各グループから出ている。1と4がリンクしているが、それぞれが分断されていると、わけて考えてしまう構成になることが問題だと思います。第四次に関して、保育サービスの充実という項目に保育所耐震化について書かれていますが、保育園建設について書かれていない。また、別の章に第四次の人口目標は3万2千人と書かれている。3万2千人であれば、保育所建設と書かないといけない。しかし、章立てが分断されているから気づいてない。今の段階で、緊急宣言している。総合計画を見ていけば、緊急宣言しなくて良かった。これは反省点です。章立ての問題で意識付けがされてしまう。審議会の前半部分の重要な部分だと思います。章立てをどうするか、有機的なつながりが見えるような構成に考えてほしいと思います。提案ですが、章立てが、どういう構成がいいか等、我々もアイデアを出したいです。それをどう使うかは、お任せします。このようなやりの方が、仕事も加速できると思います。

委員 町にメールを送る、それをまたお互いが見るというかたちでもいいと思います。そういうことをやったほうが充実すると思います。

委員 掲示板も有効だと思います。

会長 他に、7つの項目について、ご意見ございますでしょうか。

委員 3章に文化という文面が見当たらない。島本町は最近音楽祭などをされて賑やかに活発になっていますが、美術分野に関しては少ないです。しかし子育ての中において、音楽や美術は大きなウエイトを占めてくると思います。どのように子ども達が情操教育を通じて内面性を伸ばしていくかということは全然出てきていないため、まちづくりはまずこのあたりから始めていただきたいと思います。

事務局 今回は序論の前半部分だけを出させていただいております。ここでは、国の動きや、町の主な課題を掲載しています。課題はそれぞれが関連し、影響しあっています。この次の項目で、課題を踏まえた施策体系や章立てを示してまいります。課題の部分で言及がなかったとしても、歴史文化、生涯学習、スポーツ等は、反映していくことになると思います。潮流と課題があって、施策につながるものが分かりやすく見えやすい形を心がけていきたいと考えております。

委員 アンケート調査結果の22ページ、14-7と14-8について、14-7の子育てしやすいは、どちらかというとな好意的な意見を持っている人が多く、14-8の教育環境がよいについては、どちらかといえばそう思うが多いものの、子育てしやすいに比べてはあまりよくない結果となっています。島本町ではこの辺りどのように分析し、どうお考えか教えていただきたいと思います。

事務局 それぞれに課題もあります。このアンケート結果は、おっしゃっていただいたとおりです。具体的にどうあたりが足りないのか、もう少しゆっくり分析をする必要があると考えています。これが学校の設備の問題なのか、それとも過密なクラスも出てきているのか、また教育委員会と分析しながら今後どういう対策をとっていくのか、今後の基本計画の中で反映できるかたちで進めていきたいと思っています。

委員 全体的に子育てや保育のことはしっかりと書かれていますが、学校教育については一言だけです。少し弱いというのが私の主観です。高等教育の無償化は義務教育段階では対象とはなりませんので、この一言だけになっていますので、通学路のことや校区の変更、教室環境、障害者への支援ももっと必要になります。そういったことを、学力の保証と学力の向上、それぞれ分けて学校環境の充実というところでもう少し書いて、本論につなげるようにしていただければと思います。

事務局 次の基本方針、あるいは基本計画の部分でより具体的な書き方になると思います。また、この潮流と課題の部分でどこまで書くかは検討させていただきたい。

委員 12ページの、1番の最初に人口減少社会と謳われていますが、はたして島本町はどうでしょうか。過去30年間の人口の推移を見ると、ほぼ3万人近いと思います。今後マンションの建っている部分を含めると何年かはまだ少し増える。その後どうなるかわからないですが、それよりも高齢化です。その下の表にもありますが、65歳以上がだんだん多くなっていて、15歳以上の生産年齢人口が減っている。子ども達が20年近くはあまり割合が変わっていない中で、今保育の緊急宣言を出されたことは、30年間のそういう施設の維持管理に手抜きがあったのではないかと。単に子ども達が増えているわけではないと思われるので、頭に人口減少社会と持ってくるのは、その後の議論は誤る可能性があると思います。島本町に則した形のことを書かれていない。将来のビジョンを前に持ってくるかどうかについては、今後全体の将来のビジョンが出てから検討すればいいと思います。

事務局 人口減少社会についてですが、この30年間、島本町は3万人の横ばい状態が続いております。ただすでに日本全体が人口減少社会の局面に入っています。その影響は、たとえ人口が減ってなくても、少なからず島本町も受け、今後もさらにその影響は加速化していくと考えております。また、人口が単に減っている訳ではなく、少子化や高齢化といったさまざまな要因があって、人口が減っています。人口減少社会は、我が国の中での大きな今後の課題で、本町も同様の影響を受けるため、無関係ではありません。当然、高齢社会への対応や、経済の活性化を考えていくときに、今人口自体はまだ減っていないが、人口減少社会への対応を本町でも取っていかないといけないため、このタイトルといたしました。

委員 第3章を読ませていただいて、ワークショップの参加者の問題意識として今のまちづくりを進めることで、景観が損なわれる、自然を残してほしい、開発によって自然が失われていくことに対して懸念がある、開発が今過剰に行われていて、住民意見を聞いてほしいという思いが各グループで出ています。その部分を強調した書き方をさせていただきたいと思います。環境保全、自然との調和のところですが、やはり農の風景を残してほしい、田んぼ畑があってそれが島本の自然であるとワークショップの意見も出ていますが、都市農業基本法ができて都市農業を国も振興する方向に進んでいます。

畑や田んぼも緑地であると国の定義も変えられた。自然環境というところで都市の中で農園ができる町は、魅力があると思います。自然環境のところにもう少し農の状態のことも組み込んでいただきたいと思います。もう1点子育てのところですが、学童指導員が確保できない、島本町も毎月の広報で指導員募集されていて確保できていない状態があるので、学童のこともきちんと位置づけていただきたいと思います。

委員 自然に関して、島本町の場合、山林あるいは田畑農地は個人の所有権者が持っておられます。所有者がおられるということで、その財産を犠牲にするようなことはいけないと思います。それから財政のことですが、人口減少社会と、財政というのは非常に綿密な関係があります。他の市町村もいかにして定住者を増やし、人口減を防ぐかということで財政確保ということですが、企業誘致も含めて、これぐらいの人口であれば、これぐらいの財政がいるんだということで、対策が必要です。その中で、これだけの財政上大丈夫だということを明記していく必要がある。人口が減って、財源も減って本当にやっつけられるのか、次の章で書いていただきたい。

事務局 アンケートやワークショップでいただいたご意見には、賑わいや商業機能、子育て、自然関係についても、いろいろありました。これらについては明確に書いている部分とエッセンスとして生かしている部分があります。農の部分についても、どの部分で位置づけていくかは検討いたします。学童保育の部分につきましては、表現を考えていきたいと思います。

委員 アンケートのまちづくりに関する情報について、情報を主に何で得ていますか、というところで、最新の情報はやはり町のホームページなどで公開されているものが主だと思います。素案の13ページで6番高度情報化の進展とあります。こちらで上の段の最後の行に「情報にアクセスできる人とできない人の情報格差などの問題も指摘されています」とありますが、その下の本町の主な課題のところでは情報通信技術の活用としか書いてない。情報通信技術をいくら活用してもインターネットアクセスできないご高齢の方等にとって、これは課題の解決には至らない、かえって格差が発生するだけで、ここは矛盾していると思います。最新の情報がネットでしか見られないということは、問題だと思います。

事務局 13ページでは、住民の利便性の向上や事務の効率化のため、ICTの活用を進めていくことと、後半では、セキュリティ、情報教育、情報格差を課題設定しています。情報化を進めていく際には、この部分に配慮しながら対応していく形になると考えております。

会長 発言いただいていない方にも、ご意見いただきたいと思います。

委員 3章について、各項目が結びついて繋がっていくと思いますので、有機的に書けないか考えております。

委員 10年の振り返りが必要だと思います。島本町は今日を予測できていなかったのかなという思いが1つあります。それとワークショップで緑と水について言われているが、その緑を残すことは手入が大変で、実際のことでも考えてほしいと思います。

委員 7項目はどれもとても難しい、お金があれば解決できることですが、山も今だにスギなどが倒れたまま放ったらかしです。自然環境の保全と活用、自然と調和したまちづくりとは、具体的にどんな施策になるのか、全体的なまちづくりのなかでいうと希望が見えない。文章だけでは絵に描いた餅である。情報格差はあるし、アクセスできない高齢者の方もいるが、どのように情報提供するか、具体策はとても難しい。

それから自治会の加入率低下の問題、自治意識の低下の問題、どの項目を見ても簡単には片付かない。難しい審議会になると思っています。行政も、できるできないは、はっきり言っていただいて、特色が出せる計画案にさせていただけたらありがたいと思います。

委員 島本町は、やはり小さな人口3万人の町で、人と人とのつながりを大事にした町です。顔の見える関係、コミュニティを豊かにしていきたいと思っています。この計画は、わかりにくいと感じています。総合計画のため、キャッチフレーズがあり、こういう町を目指していくということがあった方がいいのか、大きな方向性を示す計画であるので、大事であると思っています。いろいろな方の相談から、誰もが排他せずに住める町が自慢できる町であると思っています。犯罪を犯した人達が自分の町で更生を誓いながら、その人達を排除するのではなく、ソーシャルインクルージョンのように、みんなで受け止めて排他することのない共生の町づくりといった視点をもって進められればと思います。

委員 島本町は、感覚としては、ここ数年の間にマンションもいっぱい建ったし、災害や水害を経験しているのでも、住みやすいですが、自然的にもう少しきっちりと整備する必要があると思います。審議会は喧嘩するような場所ではなく、有意義なご意見を皆さん正直に言い合っていると感じます。

委員 総合計画は、具体的な計画ではありません。総合計画は、計画的な町政の運営を行うため、社会の変化に対応すること、行政経営の観点からという、3つのところを、今後10年間の間でこれまでの第四次総合計画からどちらの方向に船の船首を向けていくかということ、大きな方針として示すものです。一番総合計画でやってはいけないことは、キーワードの抜けです。今後10年間やるべきことに対してこの中に入っていないければ、それはできません。それは国が、社会的潮流が変化していますというメッセージを出しているにも関わらず、町で何も書いていないと、国がこういうことをやってくださいと言ったときも、町ではやらないということになりかねません。総合計画は総花ですが、書いたことを確実にやるかといえば、それも違います。10年間に毎年、議会があつて、その中で何を優先して何に予算つけていくか決めてやっていくため、その中で決まっていくものもあります。やりたいと思ったことができないとならないように、総合計画は抜けがないようにしておかないといけない。もう一度キーワードが抜けていないかをチェックしていただき、ワークショップやアンケートの中でまちづくりの課題に取り込めるところを出していくと商工業等についてもキーワードとして記述できると思いました。

これまでの第四次までの総合計画がどういう変遷でできたかをさらっとおさらいしてもいいと思っています。それを元に徐々に10年ごとにこう変わってきたことが読み取れると、今のご時勢こういう方向のキーワードとして表現してはどうか等、アイデアが出てくると思います。少なくとも過去の経緯を踏まえて先程の町政運営を行うために最低限必要なこと、ただし抜けがなく、書いて

おくべきことは何なのか、分厚になると読みにくいこともあるため、非常に難しいが、必要最低限の情報はちゃんと入れていくということをもう一度確認していただいて、私も再度チェックさせていただきます。

会 長 この審議会の根源になるようなご意見をいただきました。今後も、ご意見をいただきたいと思えます。

2 その他

事務局 【次回以降の日程調整】

委 員 先週、JR島本駅西側開発に関する説明会がありました。町民延べ300人ほどが参加されました。その場で2,250人くらいの住宅開発の可能性があると言っておられて、第四次総合計画にはない、保育環境やインフラ、子育てについて、どうなるのかという質問が出たときに「第五次で議論してもらいます」と町がおっしゃいました。どれくらいの人口目標が適当か早く議論できるようにしていただかないと、委員の責務が果たせないのではないかと考えています。

事務局 次は序論の後半部分、将来像、将来人口、土地利用基本方針をお示しする予定です。

委 員 中学校等におけるクラブ活動をどうするかということを書けないといけないと思っています。学校の先生の負担になっています。もし挙げていただければ、教育委員会と調整しておいてください。

会 長 本日はこれで以上になります。ありがとうございました。

閉会